

その他の関係様式

支 出 伝 票

支 出 伝 票		支 払 決 定	代 表 者 印	経 理 責 任 者 印
				
交付対象名：今城克啓				
科 目	広報費			
実 施 年 月 日	令和5年4月28日			
金 額	¥ 183,458 円			
内 容	議会および市政報告、意見交換会案内チラシ			
支 払 先	中村印刷株式会社			
支 出 年 月 日	令和5年8月22日	出納簿記記入済印		
摘 要				

領収書は、裏面に添付してください。

請求書

No. _____

PRINTING 広告・書籍・一般商業印刷物企画制作
中村印刷株式会社

代表取締役 中村 まさ子

〒520-1121 滋賀県高島市勝野197番地1

TEL (0740) 36-1116

FAX (0740) 36-1053

今城 かつのぶ 様

令和 5 年 4 月 28 日

品名	数量	単価	金額	備考
広報誌 第5号	13,800枚		124,000	
加工料正替	13,800枚	310	4,278	
消費税			16,678	
		合計	144,956	

↑ 政務活動費対象

請求書

No. _____

PRINTING 広告・書籍・一般商業印刷物企画制作
中村印刷株式会社

代表取締役 中村 まさ子

〒520-1121 滋賀県高島市勝野197番地1

TEL (0740) 36-1116

FAX (0740) 36-1053

今城 様

令和 5 年 6 月 8 日

品名	数量	単価	金額	備考
広報誌 第5号	100枚		16,200	
印刷	100枚		3,500	
消費税			970	
		合計	20,670	

↑ 政務活動費対象外

領 収 証

No. _____

5 年 8 月 22 日

今正成

様

金額

¥ 205,128,-

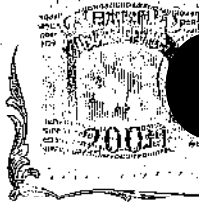
但し

上記の金額正に領収いたしました

内 訳

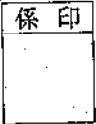
抜金額

消費税等 (%)



PRINTING 広告・書籍・一般商業印刷
中村印刷株式会社
〒520-1121 滋賀県高島市勝島
TEL (0740) 36-1016
FAX (0740) 36-1053

係 印



いまき 今城かつのが

高島市議会議員

発行責任者：今城 克啓 〒520-1204 高島市安曇川町中野 694-7 電話：090-8821-0667 メール：imakika@icloud.com

① 地域おこし戦略を考える座談会

日時：令和5年5月14日(日) 15時～17時
場所：たいさんじ風花の丘 高島市安曇川町中野4922-2

講師 田中 清行氏

田中マネジメント事務所代表
一般社団法人滋賀県中小企業診断士協会前会長
NPO法人高島商工会会長 / 中小企業診断士



滋賀銀行および滋賀県信用保証協会企業経営の審査や中小企業再生の支援に専門的に携わり、その後、滋賀県中小企業再生支援協議会に移籍しサポーターに就任。現在は、田中マネジメント事務所を開設して、滋賀県中小企業診断士協会の仲間とともに経営コンサルティング活動を行っている。

地域おこしを進めるためには、高島市の強みを最大限活用し、弱みをクリアするための効果的な取り組みを進める必要があります。
企業経営において、ビジョンや戦略をつくるために、強み、弱み、チャンス、脅威を把握分析する「SWOT分析」を、参加者の皆様とともに高島市に当てはめて行い、地域おこし戦略を考えるワークショップ形式の座談会を開催いたします。

プログラム

- 経営戦略を成功させるための「SWOT分析」の説明
- 高島市の現状についての説明
- 「SWOT分析」と戦略を考えるワークショップ、自由な意見交換

参加対象者

どなたでもご参加していただくことができます。

参加費

開催事務費として、お一人様500円。



② 民間事業活性化セミナー

日時：令和5年6月11日(日) 15時～17時
場所：たいさんじ風花の丘 高島市安曇川町中野4922-2

講演タイトル「中小企業や起業の活性化による地域経済の発展について」

講師 栗田 一人氏

Life x Fun Project 代表 / 中小企業診断士



これまで、カフェ、キッチンカーといった飲食業をはじめ、製造業、小売業、サービス業と、様々な事業の支援を行ってきた。

高島市の地域経済を発展させるためには、中小企業・小規模事業者や新たな起業が活性化することが重要である。
このためには、民間事業者、市民、行政がどのような取り組みを進めていけばよいのか、創業の専門家である講師からお話しを聞き、参加者の方々と一緒に考えて、新たな提案や取り組みに結びつけたいと思います。創業・事業化に必要なノウハウもこのセミナーでお伝えします。

プログラム

- 人生が楽しくなる「ビジネスの基本」
- 地域が元気になる「起業・新規事業」
- 自由な意見や提案などの交換、講師からのご助言

参加対象者

民間事業に何らかの形で関わっている方などでも。

参加費

講師謝礼、開催事務費を含め、お一人様1,000円。



③ 子育てセミナー

日時：令和5年6月18日(日) 15時～17時
場所：たいさんじ風花の丘 高島市安曇川町中野4922-2

講演タイトル「子どもの個性を活かし、これからの時代を生き抜く力をつけるための子育てについて」

講師 柳辺 悠介氏

株式会社志善 代表取締役



高等学校教諭を経て、大阪府を拠点に「冒険共育」「子どもレストラン」など、挑戦や体験を通じた子育て・教育の取り組みを進めるとともに、このたび令和5年4月に、枚方市立の小学校長と連携して、「やりたいことを見つける」というコンセプトで小学校に併設したフリースクールを開業した。
また、25歳から保護司として活動しており、20歳代の保護司は全国で十数名しかいない。

これからの時代を生き抜いていくためには、子どもが自ら考えて動く力を養うことや、子どもの個性を伸ばすことが重要であると考えます。
このたび、大阪府を拠点に子どもの個性を活かす教育に挑戦し取り組まれている30歳の講師から事例報告を聞き、子育て真最中の母親との意見交換を通して、私たちはどのように子育てや教育をしていけばいいか、個性を活かす選択をどのように子どもたちに示していけばいいのかなど、参加者の皆様と一緒に考えて、新たな提案や取り組みに結びつけるためのセミナーを開催します。

プログラム

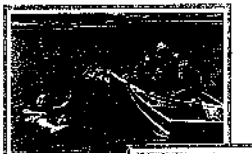
- 事例報告、対談
- 自由な意見や提案などの交換、講師や対談者からの助言

参加対象者

子育てや教育に関心のある方などでも。

参加費

講師謝礼、開催事務費を含め、お一人様1,000円。



④ 大学生の声を聞く座談会

日時：令和5年6月25日(日) 15時～17時
場所：たいさんじ風花の丘 高島市安曇川町中野4922-2

タイトル「高島市に若者が集まるとともに、仕事や地域づくりで高島市に関わる若者を増やすために」

発表者 高島市出身の男子大学生

(同志社大学2回生)

兵庫県出身の女子大学生

(神戸大学2回生)

プログラム

- 大学生からの提案や意見の発表
- 自由な意見や提案などの交換、大学生からの助言

参加対象者

どなたでもご参加していただくことができます。

参加費

開催事務費として、お一人様500円。(学生は無料)

持続可能な地域づくりのためには、高島市に若者が集まるとともに、仕事や地域づくりで高島市に関わる若者を増やす必要があると考えます。
そのためには高島市の魅力をどのように高めればいいのか、私たちにどのような取り組みが必要なのか、市内外の大学生からご提案やご意見を聞き、参加者の皆様と一緒に考えて、新たな提案や取り組みに結びつけるための座談会を開催します。



⑤ 高島の食材を活かすセミナー

日時：令和5年7月2日(日) 15時～17時

場所：安曇川公民館 高島市安曇川町田中89番地

講演タイトル 「高島の食材や食文化の活用と ビジネス化の可能性について」



講師 中須 信子氏

株式会社食彩アドコム 代表取締役

一般社団法人 フランスレストラン文化振興協会 事務局企画室担当

食材・商品の販促促進、食事会の企画・運営、レシピ開発などを、海外など多彩なフィールドで展開してきた。東京においては大手料理教室の広告・購買・法人営業を担当。自ら立ち上げた食の広告会社「株式会社食彩アドコム」では、新たな発想で市場を切り拓き、伝統的な食文化・製法を守り、人の輪で豊かな社会を築くことをめざしている。

上海市認定点心師、ローフードマイスター、フラワーゼリー認定講師など。

厳しい時代を背景にして、世界的な食料不足や食料の高騰が発生するなど、食料危機の兆候も見られます。このような状況の中、恵まれた高島の食材資源や発酵などの食文化を活かし、ビジネスにつなげるチャンスが増えていると考えます。

このたび、グローバルな視点で食材や食文化を活かすビジネスを進めている講師を囲んで、高島の食材や食文化をビジネスにつなげる可能性や必要な取り組みについてアドバイスをいただきながら意見交換を行い、新たな提案や取り組みに結びつけるためのセミナーを開催します。

プログラム

- 講演、事例報告
- 自由な意見や提案などの交換、講師からのご助言

参加対象者

高島の食材や食文化の活用に関心がある方など誰でも。

参加費

講師謝礼、開催事務費を含め、お一人様1,000円。



⑥ 地域おこしの取り組みを推進する座談会

日時：令和5年7月8日(土) 15時～17時

場所：今津東コミュニティセンター 高島市今津町中沼1-4-1

タイトル 「市民や事業者の方々による 地域おこしの取り組みを進めるために」



アドバイザー 山形 健介氏

日本経済新聞 元編集委員

早稲田大学法学部卒業、日本経済新聞社入社。産業・流通分野の取材、「日経レストラン」編集長、岡山支局長などを経て、1999年編集委員。2011年退職。現在、筆耕会代表。

九州～中部地方を中心に、数十例にも及ぶ各地の様々な地域おこしの現地取材を重ねられ、現在も取材や書籍の執筆を精力的に続けている。高島市でも、地元木材による朽木の体育館づくりなどを取材され、記事でご紹介いただいた。



地域おこしとは、経済力や人々の意欲を向上させる、あるいは人を増やすためなどに行う様々な活動のことです。ご参加の皆様の中で、地域おこしのお取り組みをされていたり、今後してみたい方がいらしたらぜひご発表をいただき、アドバイザーから情報や助言をいただきながら、行政や政治がどのようにサポートすればよいか、市民の方々などどのようにつながっていけばよいか、参加者の皆様と一緒に考えて、お取り組みを進めるための座談会を開催します。

プログラム

- ご希望していただける参加者による発表（お一人5分～20分程度）、サポート方法の検討
- アドバイザーからのご助言、自由な意見や提案などの交換

参加対象者

地域おこしやまちづくりに関心していただきたい方など誰でも。

※恐れ入りますが、地域おこしのお取り組みをされていたり今後してみたい方で、ご発表にご協力いただけます場合は、6月16日(金)までにご連絡をくださいますようお願いいたします。

参加費

アドバイザー謝礼、開催事務費を含め、お一人様500円。

セミナーお申込み先 今城かつのぶ ☎090-8821-0667 ✉imakika@icloud.com

令和5年3月議会の 一般質問について

令和5年3月議会の一般質問と市の答弁、および答弁をまとめた今後の対応について、抜粋し要約しました。

1 関係人口づくりを地域経済の活性化につなげるために

①市内で仕事をしていた関係人口の増加

地方で仕事をすることに理解を示されている企業をリサーチして、リテライトオフィス、テレワーク、ワーケーション、市内での副業など、高島市内で仕事をしていたり、将来的に営業活動を行ってほしい方へのサポートが必要。

②拠点づくり

市内で仕事をしていた関係人口づくりを進めるためには、周辺環境や通勤が良くなつた内業を行うためのインターネット環境を始めた施設整備が欠かせない。また、市内で仕事をしていた関係人口の増加につなげるために、関係人口の増加を促す施策が必要。

③市民や民間事業者の方々による関係人口づくり

市民や民間事業者の方々による関係人口づくりについても、高島市と一緒に取り組むという位置づけにしたい。国の交付金に該当するなどの支援をしながら推進することが望ましいと考える。

④官民が一緒になった新たな運営主体

民間企業やまちづくり会社のような方法で、一部には成功を収めている自治体もあるが、地域によって事情や特性、ノウハウの蓄積などが大きく異なることから、他の地域の成功事例を模倣しても必ずしも成功につなげることは難しい。新たな団体の設立については慎重に考えている。

⑤関係人口の増加

まずは、高島市が関係人口を増やすこと、この意識を、市が中心となって、広く市民や市内の事業者の間で共有していただけるように努めていく必要がある。

※サテライトオフィスやワーケーションなどに活用する拠点の整備も、関係人口の増加につながる。市内の民間の方々による拠点の整備など、ハード事業への支援策を調査し、市に提案していきたいと考えます。

2 「足育」の推進について

①「足育」の重要性について

子どもたちが運動する機会を増やすことが重要であるが、それだけでは不十分で、子どもの足に注目する必要がある。子どもに足や靴についての知識や役割などを正しく伝えて、正しい姿勢や歩き方を身につけることで健康的な足や身体を育てる「足育」の重要性をどのように伝えるか。

②小中学校の望ましい上履きについて

足の発達や運動能力の向上にとって望ましい上履きを履くことが必要で、地震などの災害が発生した場合は大変危険であることから、中学校の上履きにはスリッパを指定することを見直し、小中学校の上履きはマジックテープや紐のある運動靴を使用することが望ましいと考える。また、保護者の経済負担を軽減するための支援策も必要。

③関係人口の増加

まずは、高島市が関係人口を増やすこと、この意識を、市が中心となって、広く市民や市内の事業者の間で共有していただけるように努めていく必要がある。

④関係人口の増加

まずは、高島市が関係人口を増やすこと、この意識を、市が中心となって、広く市民や市内の事業者の間で共有していただけるように努めていく必要がある。

⑤関係人口の増加

まずは、高島市が関係人口を増やすこと、この意識を、市が中心となって、広く市民や市内の事業者の間で共有していただけるように努めていく必要がある。

⑥関係人口の増加

まずは、高島市が関係人口を増やすこと、この意識を、市が中心となって、広く市民や市内の事業者の間で共有していただけるように努めていく必要がある。

※サテライトオフィスやワーケーションなどに活用する拠点の整備も、関係人口の増加につながる。市内の民間の方々による拠点の整備など、ハード事業への支援策を調査し、市に提案していきたいと考えます。



その他の関係様式

支 出 伝 票

支 出 伝 票		支 払 決 定	代 表 者 印 	経 理 責 任 者 印 
		交付対象名：今城克啓		
科 目	広報費			
実 施 年 月 日	令和6年1月28日			
金 額	¥ 183,458 円			
内 容	議会および市政報告、意見交換会案内チラシ			
支 払 先	中村印刷株式会社			
支 出 年 月 日	令和6年3月1日	出納簿記記入済印		
摘 要				

領収書は、裏面に添付してください。

請 求 書

No. _____

今城かつのぶ 様

令和 6 年 1 月 26 日

PRINTING
中村印刷株式会社
 〒520-1121 滋賀県高島市市街西2-1-1
 TEL 0740-36-1116
 FAX 0740-36-1053
 登録番号

品 名	数 量	単 価	金 額	備 考
広報紙 第6号	1,800枚		124,000	
折込料正替	1,800枚	23.10	42,780	
消費税			1,667.8	
		合 計	¥183,458	

領 収 証

No. _____

今城かつのぶ 様

6 年 3 月 1 日

金額 **¥183,458.-**

但し
 上記の金額正に領収いたしました

内 訳
 抜金額
 消費税額等 (%)

PRINTING
中村印刷株式会社
 〒520-1121 滋賀県高島市市街西2-1-1
 TEL 0740-36-1116 FAX 0740-36-1053
 登録番号

係 印

いまき

高島市議会議員

今城かつのが

発行責任者：今城 克啓 〒520-1204 高島市安曇川町中野 694-7 電話：090-8821-0667 メール：imakika@icloud.com

ごあいさつ

令和6年元日に未曾有の大地震が能登半島を襲いました。ライフラインは寸断され、被害の全容も明らかになっていません。このような中で避難生活や救助活動および復旧作業が続く大変厳しい状況です。心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。
今回の震災でインフラの重要性が浮き彫りになる中、国道161号の整備が急がれることを改めて痛感します。また、地域経済の活性化だけでなく、災害の対応も考えますと、地方における働き手不足の中、様々な分野において市内で仕事をする人材を確保することは大変重要な課題です。
高島市の令和4年度決算は、経常収支比率が95.7に上昇し、財政状況は次第に厳しくなっています。このような中、効果的な施策を市に提案し働きかけていくにあたって、引き続き座談会を開催させていただき、市民の皆様からご意見やご提案を伺いたいと思います。気軽に温かい会ですので、ぜひともご参加くださいますようお願いいたします。
なお、お手数をかけますが、ご参加の連絡をいただければ幸いです。お忙しいところ恐れ入りますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

① 高島市のこれからを考える座談会

日時：令和6年2月3日(土) 10時～12時
場所：今津東コミュニティセンター
高島市今津町中沼 1-4-1

プログラム

- 令和5年の座談会やセミナーの報告
- 令和5年の座談会やセミナーでいただいたご提案から参加者の皆様といくつかを選び、実現に向けて意見交換

高島市のこれからについて、昨年の座談会やセミナーなどで多くの重要なご提案をいただきました。行政が果たすべき役割や支援策も含めてどのようにすれば実現できるのか、参加者の皆様とさらに意見交換を深めたいと思います。

参加対象者

どなたでもご参加していただくことができます。

参加費

開催事務費として、お一人様 500円 (学生は無料)。



② 木のお酒やジビエなど新たな食の可能性を考える座談会

日時：令和6年2月10日(土) 15時～17時
場所：たいさんじ風花の丘 高島市安曇川町田中 4922-2



講師 永谷 武久氏

大吉商店株式会社 社長

23歳で大吉商店4代目社長に就任。近江商人の経営哲学に基づき、前例のない改革を次々と成功させて、6次産業化を実現している。

講師 池本 浩久氏

池本酒造有限公司 社長

30歳で蔵元兼社長に就任。日本酒づくりを1人でこなし、日本で唯一の「低温超長期もろみ」という新しい発酵技術を開発した。



プログラム

- 講師が実践されてきた取り組みや新たな食の可能性についてのお話
- 参加者の皆様との自由な意見や提案などの交換

参加対象者

どなたでもご参加していただくことができます。

参加費

開催事務費として、お一人様 500円 (学生は無料)。

③ 高島市政の課題についての座談会

日時：令和6年2月18日(日) 15時～17時
場所：今津東コミュニティセンター
高島市今津町中沼 1-4-1

プログラム

- 新たなごみ処理施設の整備と市費約3億7千万円未返還問題についての説明
- 参加者の皆様との自由な意見や提案などの交換

新たなごみ処理施設の整備とイチゴ栽培施設の市費約3億7千万円未返還問題は、日頃より特に多くのご意見をいただいている課題です。このような課題について市民の皆様と情報を共有し、ご意見やご提案をいただき、市への働きかけに反映するための座談会を開催いたします。

参加対象者

どなたでもご参加していただくことができます。

参加費

開催事務費として、お一人様 500円 (学生は無料)。



セミナーお申込み先 今城かつのが ☎090-8821-0667 ✉imakika@icloud.com

令和5年の座談会やセミナーでいただいたご提案や課題のまとめ

地域おこしや人づくりは個性や魅力を活かすこと、および立ち上げた後の支援や継続性が重要であることなどを指摘いただきました。ご提案の実現に向けて、市の果たすべき役割や行政の支援について市と議論し、市に働きかけていきたいと考えます。

1 関係人口づくりや移住・定住について

心と身体を癒したり、農産物や食および豊かな自然を活かした健康づくりができるということを市外にアピール。素晴らしい古民家をアピール。テレワークができる環境整備。
体験も含めて農業をしたい若手や都市住民を呼び込む。地域おこし協力隊制度を活用。大学との関わりを継続的なものに。



2 観光や地場産業など

地域内の生産に投資することが重要。超富裕層が狙うのは健康づくりや健康に良い食べ物。民泊を活かした農林漁業体験で修学旅行を誘致。鹿肉の活用や企業の森など、森林をあらゆる方法で活用。福井県とつながって誘客。

3 起業や新規事業について

社会問題や社会ニーズの解決に結びつく起業や新規事業が有効。起業や新規事業の情報が必要。大学生と市内事業者がリアルに交流できる場が必要。大学生による起業を集める。起業した後の支援が必要。

4 街おこし

事業者を募集して空き店舗をチャレンジショップとして活用。発酵の店や拠点の整備。観光ガイドの導入。新しい街おこしが生まれ、そこに地元の店が残って続いていけば意味がある。人を集める仕掛けをつくることからコンパクトシティ化を試行。世代間で交流できる場を増やす。



5 子育て

官と民がつながってアウトドアも含めた特徴ある教育を導入する。子どもが子どもを教えることも効果的。やりたいことが見つかった、子どもの中でその優先順位が高まることが重要。不登校への対応としてズーム学習やギガスクールなどが効果的であるがデジタル面での活用が遅れている。子どもの能力を引き出すことをもっと重視。例えば、読み書きの力をつけたり、農業を体験させたりシェフを育てるなど、子どもの力や知恵を活かしてたくましい子どもを育てる。学習面が充実する環境づくり。支援制度の情報提供や相談機能の充実が必要。



令和5年12月議会の一般質問について

議会の質問と市の答弁、および市の答弁を受けている市議員の発言、抜粋し掲載しました。
※市議員の発言は、このままの状態で掲載させていただきます。

1 高島市の魅力を活かした関係人口づくりについて

「リビング・シフト」とは、Eー1の発展によってどこにいても仕事ができるという時代に、仕事や生活をする場所の選び方、暮らしの価値観などが変化していることを指します。コロナ禍によりこのような変化が加速化したことを捉えて、高島市に新たな人の流れをつくる構想が「高島リビング・シフト構想」です。

①リビング・シフトエリアについて

都市部の方々が憧れるような高島市独特の素晴らしい環境として、琵琶湖、高原、森林それぞれにおいて対象エリアを設定し、サテライトオフィスやコワーキングスペースの誘致や整備を重点的に進めてはどうか。

市の答弁

コワーキングスペースや、企業研修やワーケーションを受ける宿泊施設などの民間の対象施設を見える化することにより、まちのイメージアップを図っていくことが行政の役割である。

特定のエリアを指定するというのではなく、市内全域を対象として進めていきたい。

②歴史的価値や文化的価値の高い魅力的な空き家の発掘について

歴史的価値や文化的価値に応じた評価や区分をするなどによって魅力的な古民家の空き家を発掘し、リビング・シフトの拠点として積極的に整備しアピールしてはどうか。

市の答弁

市が物件を買い上げ、または借り上げて施設を整備するところまでは考えていないが、空き家紹介システム登録物件の情報を関係部署と共有しながら拠点ニーズとのマッチングを図るなど、リビング・シフト構想の推進に取り組んでまいりたい。

③2の答弁を受けて

見える化やマッチングなどのソフト事業だけでなく、予算の選択と集中の工夫をしながらハード整備を進めることによって、地方で仕事をしたり長期滞在したりする人や企業

を引き付けることができると考えます。

近江今津駅前では、市内の民間事業者様などのお力でイルミネーションを整備されるなどのお取り組みがされています。今年度より市は、星の北部振興策や企業版ふるさと納税を活用して、駅のコンコースや待合室の改修およびコワーキングスペースの整備などを進める予定です。

さらに質問の内容を進めるためには、国の交付金の様々なメニューも活用するよう市に働きかけていきたいと考えます。

③起業や新規事業にチャレンジする学生とのつながりについて

高島市内をフィールドにした起業や新規事業にチャレンジしたい学生や将来志望される学生を集めて、交流や情報交換の場などチャレンジしやすい環境をつくりたいという思いを支援を行ってほしい。

市の答弁

市外の20代から30代の社会人と市内事業者等との交流を通じて市内体験ツアーを実施した。今後の展開の中で、学生を対象にしていきたい。

市についても検討してはいきたい。

市の創業支援体制として、創業時の負担軽減を図る「創業スタートアップ応援事業補助金」のほか、商工会や中小企業診断士等と連携した相談支援を提供している。

④(市外の)関係人口の方々が市内の事業所に通勤される場合の支援策について

市の答弁

市内民間事業者の人材確保や雇用における人口増加および湖西線の利用促進を図るために、関係人口の方々が市内の事業所に通勤される場合についても何らかの支援策が必要と考えられている。

市の答弁

市外から通勤する従業員が市内に入社された場合には、市の移住施策との相乗効果を図る観点から、雇用増進奨励金を増額しているが、その対象を市外在住者へと拡大していくことについては考えていない。

⑤企業の森について

市の答弁

環境、社会、企業統治に対する企業の取り組みがますます求められる中、琵琶湖の水源地である広大な豊かな森林を有する高島市にとって企業の森は大きな可能性があると考える。高島市では今後企業の森をどのように拡大していくのか。

市の答弁

森の中で企業のSDGsを考える「モニター」を推進し、参加された企業と、現在琵琶湖森林づくりパートナー協定締結に向けた協議を進めている。

今後、滋賀県や森林公園くつぎの森と連携し、企業へのアプローチや受け入れにかかる情報の共有、協力体制を整えていく。

市の答弁

豊か自然環境の中での癒しや発酵文化を取り入れた身体や心の健康づくりのプログラムを作成し、市外企業の福利厚生事業に活用していただくことを位置付けている。

市の答弁

高島の森の恵みを活かしながら運動、栄養、休養といった健康の3要素を体験できるモデルを作成し、市外企業の福利厚生事業に活用していただくことを位置付けている。

今後は、運動効果に加え、腸内環境を整えることも免疫機能の向上に役立つと考え、発酵食品を使った食事の提供するなど、本市の特性を活かした栄養の観点も取り入れていきたい。

⑥2の答弁を受けて

環境貢献活動や健康づくりなど、高島市の魅力を活かした多様な関わり方を都市部の大企業等とともにつくり出すことは、人材の確保や企業誘致にもつながると考えます。前向きに進めていくことが伝わりましたので、後押ししてまいります。

2 快適な学習環境を実現する学校施設の改修について

学校の改修について

トイレの改修や十分な数の確保を始めとする学校施設の改修と内装の大規模改修および市内産木材の使用について質問しました。質問と答弁のやりとりは、1月下旬に配布されます。高島市議会より第92号をご確認ください。よろしくお願いいたします。

高島市政の課題について

次の2つの課題については、市民の方々から特に多くのご意見をいただいております。現在の状況や考え方については次のとおりです。

新たなごみ処理施設の整備について

市は安曇川町田中の泰山寺地区で新たなごみ処理施設の整備を進めています。

一方で、泰山寺野は、北海道を彷彿とさせる広大な景観、品質の高い農産物、歴史や文化などの素晴らしい魅力があり、それらを活かした整備を進めることによって高島市を代表する観光地の1つになり、人の流れをつくることができると考えています。実際に地元食材を活かしたレストランや直売施設および田舎暮らし体験施設などがあり、京都の大企業も毎年のように農業体験に訪れています。

このような場所でごみ処理施設を設置することは大変難しい選択策であると考えます。計画の内容や進め方において相当な工夫や配慮が必要と考えますので、下記の内容を市に求めました。

- 泰山寺野の高原の中の高い場所に現在の計画地があり、景観を観光に活かすエリアと考えた場合は核心部になります。泰山寺野の景観を観光に活かすためには、建物の設置場所を変更するなどの工夫が必要となります。
- 景観を観光に活かすためには、市が示している建物の外観をもっと工夫する必要があります。
- 観光客が訪れるルート、生活や仕事の道路、ごみ収集車の搬入路それぞれの動線を区別する必要があります。そのため、道路配置の工夫や道路整備が必要です。
- 市は、泰山寺周辺の7つの区、自治会にも新たな地域振興事業交付金を提示し、交付金は合計4億円に膨らんでいます。交付金の金額を膨らませるよりも、計画の内容を工夫したり変更したりすることによって地域の方々の懸念を小さくすることが重要です。

●公共施設を減らさなければならないなど市の財政状況は厳しいため、環境センターを建て替えることを有力な選択策として今はまだ残しておくことが必要です。

泰山寺地区で新たに整備する場合は、環境センターの解体撤去など原状回復に関する作業費を全体事業費に含める必要があります。

市費3億7,375万円の未返還問題について

国費による補助金が予算化されたイチゴ栽培施設の整備について、市は、国費による概算払いをまだ受けることができない段階で、先に市費で3億7,375万円の概算払いをされたことが明らかになりました。

国費の補助金交付決定が取り消しになって国費による支払いが見込めなくなったため、市は市費で支払った3億7,375万円を事業者から回収しなければならなくなり、市と事業者は民事裁判で争っている状況です。

概算払い自体は認められている制度です。しかしながらこのような概算払いは考えにくく、問題解決や再発防止のためには、民事裁判で争うだけではなく、このたびの概算払いを検証する必要があると考えます。昨年9月議会の一般質問で取り上げましたので、市とのやりとりを抜粋し要約します。

市への質問

国費を財源とした概算払いを受けることができるタイミングまで事業者が待っていたが、それまでの工事費金は自己資金や融資によって対応していただくべきであったと考えます。

市の答弁

年度内に事業完了するという前提で、補助金等交付規

則および補助金交付決定による請求に基づき概算払いを行っており、適法な手続きによる概算払いであった。

市への質問

市費で約3億7,400万円の概算払いを行うという判断に至るまでに、市役所の中ではどのような議論が行われたのか。あわせて、市役所の中でこのたびの概算払いについての慎重論や反対はなかったのか。

市の答弁

通常の事務執行における必要性や根拠などを検討するのと同様に検討したものであり、規則等に照らし概算払いしたものの。

市への質問

市費で約3億7,400万円もの概算払いをすることについて、当補助事業の執行にあたって様々なやりとりをしている市役所を始めた関係機関になぜ事前に相談や情報提供をしなかったのか。

市の答弁

概算払いとしては、国の概算払いのルールはあるものの、各市町の規則によって行われるものであり、国として周知しないという旨を県を通じて確認させていただいていた。

※市の答弁からは、このたびの概算払いには問題がなかったという認識が伝わりましたが、問題の解決や再発防止のためには、このような認識が変わらなければならないと考えます。市に認識を変えていただくためにも、引き続き市と議論してまいります。